

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生活の場は変わっても地域の一員であること、個人としての暮らしぶり、環境は変わらないということを理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング、月に一度のスタッフ会議において理念の共有を提唱している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族が面会の際には、利用者の暮らしぶりや地域行事での様子をお伝えしている。運営推進員の方々や、苑の見学者の方々に理念や方針をお話している。	○	苑を訪れてくれる一部分の方以外にも、苑の方針を浸透させていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の日常的な散歩により、近所の住民の方々とは顔見知りであり、また、犬を飼っているため、子供や犬の散歩の途中の方、飼犬と遊んでくれる方が苑庭に入ってくる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には加入していないが地域の早朝清掃作業に参加したり、地域の行事やイベントには参加して、利用者が知人、友人との交流を深めている。	○	自治会のチランが時々回ってきたり、お祭りの負担金の割り当てもあつたりするので、地域の住民として認められるように活動をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市から「家族介護教室」開催の委託を受けて年に2回一般市民を対象に、認知症を知ってもらう企画を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内にこもらないこと、抱え込まないことをモットーとして、開かれた施設でありたいと認識し、努力をしている。利用者本位の支援を念頭においている。	○	現在最も出来ていないことは、地域の人を取り込んでの事業なので、実践していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度やっと「運営推進会議」を立ち上げ、2回実施に至っている。委員さん方はとても好意的で、評価していただいている。苑の内容を見聞して頂けるのは嬉しい。	○	「グループホームだより」の発行を希望されながらまだ実行できていない。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する「地域ケア会議」が月に一度実施され、ホーム長が出席し、時には意見を頂いている。また、運営について疑問な点は直接訪問して相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところパンフレットによる知識程度で、学ぶ機会を得ていない。	○	現在、金銭管理で支援員を利用されている方が一名いるが、権利擁護が必要な方は今の所入所されていない。しかし、知識を得ていることは大切なことなので学ぶ機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力をはじめとして、虐待は今の所皆無という認識である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当が決まっており、それとなく声を掛け、聞くようになっている。必要とあればその後、スタッフ会議に掛け、みな意見を取り入れ対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当が決まっていって請求書を送付する際、苑での様子、健康状態等コメントと一緒に添付している。お小遣いのみお預かりしていて、金銭出納長はご家族が見えられた際確認し、ハンコを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口について、「重要事項説明書」に載せてある。ご家族が来苑された際、希望することがあれば意見を言ってもらっている。また、家族会も設けている。玄関先に投書箱も置いてある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議を利用し、職員の提案や意見を聞いている。すぐに実行できることは次の日から始めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診等家族が対応できないとき、事前に勤務シフトを調整し、利用者や家族の希望に添えるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚退職等で辞めていく職員がいた時は、かなり前から一緒に喜んで、お祝いの言葉等を頻繁に口にし、いなくなるショックを和らげた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に関する研修には定期的に参加の計画を立て、働きながら資格を取る職員には勤務シフトを調整したりしながら応援している。	○ 職員の担当を決め、研修の案内があったらその担当者に参加してもらう。 例:レクリエーション担当
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度の地域ケア会議に出席し、情報交換をしている。職員はグループホーム同士の交換研修に参加し交流を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会を定期的に計画したり、それぞれの趣味を楽しめるよう勤務シフト作成時に希望を入れている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場で個々の得意分野を發揮できるよう努めている。 例:行事の写真(ユニークなコメント入り)作り	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の話に耳を傾け、家族の情報から困っていること、不安な事等を聴き、安心して利用できるように説明し、関係を築く努力をしている。	○ 宿泊体験の利用等、不安を取り除く意味で薦めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度でも来て頂き、納得してもらうまで話を聴くよう努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されても空きがない時には、他の施設を紹介したり、デイサービスの利用等を進めたりする。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	苑の見学や、一晩体験入所されてから、実際の入所を決めた方もいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物(マフラー)、縫い物(パッチワーク、巾着)等をしてもらいながら思い出話を聞いたり、本人が忘れてしまい「困った」と思っているようなことは、さり気なく「こうだったんじゃないの」と言ってみせて聞かせる。手仕事をしながらの会話は良いと思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	大方の家族との関係は良好と思う。用事だけを済ませて帰られる家族もあるが、お茶を出し、談笑の時間を取っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が、利用者の認知症を認めることが出来ずに、叱ったり、怒ったりする方がいるが、職員が中に入って仲を取り直すようにしているケースがある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えられた親戚や知人の方が帰られる際、「とても笑顔がいいですよ。待ってますからまたいらして下さい」等と声がけをする。	○	東京からいらしている利用者が一人いて、常に帰りたいと希望している。気持ちは十分理解しながらも、どうにもしてやれない事が切ない。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	とても気の合う利用者同士もあり、まったく孤立している利用者、職員に常にくっついて利用者と様々であるが、本人の長所を褒めたりしながら、「○○さんも、こっち来て」と呼びかけて、一緒に行動に結び付けたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院されて亡くなられた方のご家族が、「お世話になりました」と涙ながらに来苑されたり、別の施設に移られた方からお手紙を頂いた時はとても嬉しかった。また、自宅に戻られた方で、数ヶ月に一度顔を見せてくださる方がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を把握することは非常に難しい。しかしながら、一人一人と向き合い、会話をする中から本人の思いを見つけ出す努力をしている。	○	現在はなぜここにいるのかさえ、認識していない利用者がいるが、本来は入所時に希望、意向が把握できれば良い。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族、ケアマネージャーより、生活を聞き、本人の話を総合して、イメージを膨らますことも大切と心得ている。勿論、独りよがりのものにならないように。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	仕事をするのがとても好きな人、じっとして座っているのが好きな方。でも急に「今日は疲れているので」と言い、お手伝いしてくれなかったり、その日その日の状況を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当苑に来てよかったと思えるケアに結び付けたいとの願いで、家族や関係者の願いを介護計画に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	夜勤者よりの引継ぎ事項、また、日々の気付きを月に一度のスタッフ会議の際に話し合い、来苑される家族に相談しながら、介護計画に活かしている。即実施が必要な場合は、電話で相談をして、ケアに結び付けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤の職員は、その日の様子、ケアの状態を文章で記入し、個別記録としている。休日にあたっていた職員はそれを読むことにより、利用者の様子を把握することが出来る。また、引継ぎの際、気付いたことを話し合い、見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の際に家族の都合がつかない場合に職員で対応している。(有料)可能な限り要望に応じられるよう、門戸を開いている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々の取り組みではなく全体として、ボランティアグループの訪問により、お茶会や昔話を聞いたり、消防署の避難訓練の実施、市の芸術祭への作品展示等を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院受診の際に家族が付き添いを出来ない利用者は、介護タクシーを利用するなど、病院受診が円滑に行われている。	○	グループホームに入所しながら受けられる他のサービスについて勉強し、受けられるものは可能な限り支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進委員のメンバーでもあり、今後長期的支援に向けての協働は可能である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診に関しては、何ら支障なく進行している。歯科についてもかかりつけ医があるということで前回評価していただいた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の際、職員が同行し、状況を説明したり、文書による相談で、回答を頂いているケースもある。	○	病院によっては、適切なアドバイスがもらえずがっかりしてしまうこともある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護師がおり、健康に関することについて、常に意見を仰いでいる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、安心して過ごせるよう、職員、他の利用者等、お見舞いに出かけたり、家族とも情報を交換し合う。その際、病院関係者から、利用者の状態を聞いている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向け取り組んでいくという方向で意見は一致している。取り組み方についても話し合っている。現在介護度4の方が一名おり、職員全員試行錯誤しながら取り組んでいる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的にはかかりつけ医とのチーム編成はまだ実施していない。今後の変化については、夜勤者については重点的に問題視しているところだ。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換は十分行っている。その後も変わられた施設や病院に本人を訪問したりしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	皆の前で言われて嫌な事は排泄に関する大きいと思う。トイレ誘導はさり気なく、リハビリパンツ等の取替えについては自室で行うように気をつけている。記録等も他者の目に触れないように管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	縫い物、編み物、歌、キーボード、塗り絵など何種類かの趣味のことを提示して、その中から自然に本人に向けたものを選んでもらい、折りに触れ行ってもらうことで自信につなげている。何事においても自己決定をしてもらうことを心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩にしてもレクにしても本人の希望を聞き、参加したくない利用者に強制しない。入浴予定日であっても入りたくない気分の日には無理に勧めない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服については家族が届けてくれる方もあるが、職員と一緒にお店に行き、自分で買う方もある。美容室については一名の方が町外を利用しているため家族が対応している。他の方はホームの近くの理容所であるが、一名そこが嫌だと言い、少し離れた理容所へ職員が送迎している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが最大の楽しみと認識している。郷土料理、行事料理を取り入れるようにしている。調理(刻み)、盛り付け、配膳、後片付けはそれぞれ分担してやってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	缶ジュース、缶コーヒー、アメ等については、職員と一緒にマーケットに行った際に買ってくることもあり、楽しんでいるが、今の所タバコを吸う人はなく、お酒の要求も今のところはない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見計らって声掛け誘導にてトイレ利用をしてもらうケースもあり、夜間も見回りの際、声掛けにてトイレ利用に結びつけるケースあり。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、曜日ごとに入浴者を決めているのだが、それはあくまでも建て前であり、当日に入りたい入りたくないは本人の意思による。また、翌日通院予定であったり、外出予定の利用者には随時、入浴してもらっている。	○	皆が入浴を楽しみにしているわけではなく、自宅で入浴があまり好きでなかった利用者で頑として拒む方があり、無理強いしないということで良いのか、何か良い方法はないのか悩みの種である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室であるので、休息・睡眠は十分取れていると思う。ホールのテーブルで居眠りしている利用者は、「お部屋で休みましょう」と声掛けにて、誘導して休んでもらう。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	主婦業であった方は、洗濯・掃除等の家事をきちんと行い、農業をしていた方は、畑の野菜作り、と、力を発揮してくれる。歌が好きな方は、歌を唄うと笑顔になる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお小遣いは、事務室で預かっているが、(自分で所持している方数名)洋服を買ったり、イベントに参加したり、外出の際には個人個人で所持して出かける。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	とても外に出たい方一名は「散歩」というと、すぐに立ち上がる。「今日に行く」「今日は行かない」という方が2、3名。「脚が痛い」「腰が痛い」と、外に出たがらない方は車椅子介助で時折。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食ツアーを月に一度実施している。一番人気は回転寿司。10月は花巻市内で食事をして帰路「童話村」に寄ってきた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用できるように支援している。また、利用者が家族のことを気遣ったり、会いたくなった時にはスタッフが電話を掛けて家族と会話をしてもらうようにしている。	○	友人から手紙を頂く利用者はいるが、こちらから出す、という支援は今の所行っていないので、手紙を書くという実践していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	苑としては来訪者には、感じよく過ごして頂けるように接待しているつもりである。また、話の中に加わり、さり気なく話題を提供したりしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。マニュアルを理解し、スタッフは、身体拘束を行わないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は勿論のこと、日中は玄関に全く鍵を掛けずに、利用者は自由に出て行くことが出来る。代償として、スタッフの監視は欠かせない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確認には十分気を配り、常に所在を確認するケアを怠らない支援を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在のところ、危険な物品の持ち込みケースは確認されていないが、今後そのようなことが生じた場合には、本人のプライド、思いを傷つけない工夫を実践する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今までに転倒、行方不明は、僅かながら例があった。その都度職員は重く受け止め、繰り返すことが無い様に話し合いを重ね、実践に活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応についてはマニュアルがあり、見やすい場所に掲示されてある。また、職員の中で「応急手当講習会」を受講した者が他の職員に伝達している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、避難訓練を実施し、利用者の誘導の方法を習得している。	○	災害時、地域の人々の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会の際に、変化が見られることを報告し対応の仕方を話し合っている。面会時以外にも、いつもと違った様子が見られる場合は電話で報告し、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変は、少人数ホームならではの気付きであり、連絡ノート(職員間の)への記載、また、朝晩の引継ぎにおいて共有されている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しており、服薬の支援に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の訴えのある利用者は数名おり、便秘薬を服用しているが、その他にも水分補給や散歩の声掛けをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自力で歯磨きができる利用者を除き、「歯磨きしましょう」と洗面所に誘導して口腔ケアを行っている。一名なかなか応じない利用者があるが、無理強いせず、コップの置く場所を工夫したりして見守っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、縫いぐるみ、写真等、お部屋に飾られている利用者もおられるが、徹底していない。飾ってあっても、押入れにしまいこんでしまう人もある。	○	独居であった利用者の場合、娘さんが家族の場合は、なじみの品物を持ってきてくれるが、息子の場合はお願いしてもなかなか応じてもらえない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物が木造であり、空気が淀んだりにおい等がこもらないように思う。温度調節については、夏の暑さは平気なのだが、利用者のほとんどが「寒い」と訴えるのでその都度温度の調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、足元に物を置かない。廊下、トイレに手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	この利用者にはこの仕事、この方はこっちが得意ということを把握し、それぞれの利用者の出来る力を発揮してもらっている。(縫い物、調理、洗濯物たたみ、草取り、配膳、茶碗洗い、等々)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りに花壇を作り、春には花苗植え、草取り、また、狭いながら芝生もあり、そこで休息し、なんといっても見晴らしの良い景色を楽しむことができる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大迫町に初のグループホームを開所して3年が経過しようとしているが、振り返ってみると職員の入れ替え等も相次ぎ、定着させることに夢中な歳月であった。月に一度の